

第 42 期第 13 回理事会議事録

日時：2024 年 2 月 2 日（金） 15 時 00 分～18 時 45 分

会場：日本気象学会事務室（Web 会議方式）

出席理事：佐藤薫，橋田俊彦，青柳暁典，荒川知子，池上雅明，稲津將，榎本剛，齋藤篤思，
佐藤正樹，高谷康太郎，竹見哲也，竹村俊彦，中村尚，橋本明弘，早坂忠裕，
堀之内武，渡部雅浩，以上 17 名（理事数現在 20 名）

欠席理事：植田宏昭，坪木和久，三好建正

出席監事：鈴木靖，吉田聡

その他の出席者：勝山税，齋藤誠一郎，萬納寺信崇（事務局）

議題

1. 協議事項

1) 会員の新規加入について

新入会員 22，退会 229 を全会一致で承認した。2024 年 1 月 31 日現在，会員数 3,281 名で個人会員は 3,090 名。

2) 第 42 期第 12 回理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

3) 2024 年度総会告示、総会参加依頼

2024 年度定時社員総会告示案および 2024 年度定時社員総会への参加依頼文書案が示され，全会一致で承認した。

4) 2024 年度事業計画書、2024 年度収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みについて

各事業担当から提出された内容を取りまとめた 2024 年度事業計画案が示された。また，収支を赤字にしないことを基本的な考え方として作成された 2024 年度収支予算案が示され，検討の結果，2024 年度事業計画及び収支予算について，全会一致で承認した。

2. 報告事項

1) WG からの報告

①「天気」と関連する会員サービスの検討 WG・・・以下の内容が報告された

・有償配布への申し込みは 180 名。今後最適化して経費を減らす。

②大会のあり方 WG・・・以下の内容が報告された。

・WG の中間報告として，春季大会を JpGU との共催に移行し，秋季大会を年次大会と位置付けて，気象学会独自に実施する大会は年 1 回の開催にすることを提案する。

・準備期間を考慮して，最短で 2026 年春季大会からの移行を検討中。

以下の意見があった。

・JpGU には気象に関するセッションは既に行われており，セッションが立っていない分野

でも一般気象セッションを立てているのでそこで吸収する。

- ・ JpGU の参加費が高いことは問題である。春の学会は東京で実施するので気象庁職員が参加しやすかったが、今後は気象庁との交流という面で難がある。例えば関東地方で研究会を行うなどして、春季大会の代わりにする案もある。

2) 業務執行理事の報告

庶務担当理事・・・以下の内容が報告された

・掲載許可

①申請者：株式会社学究社 河端真一

【転載元】：日本気象学会機関誌「天気」（2018年）第65巻第5号, 43-50 ページ。

タイトル：気象談話室「関東大震災と東京空襲の火災に伴う中央気象台の高温と強風」（藤部文昭著）

掲載図：第3図 関東大震災による東京市内主要部の焼失域

【転載先】：進学塾 ena 「小6直前特訓」（九段中等コース適性検査2）

掲載箇所 大問2 [資料4]

実施日 2023年1月29日 発行部数 120部 教材料金 880円

②申請者：吉田智

【転載元】：Masahide Nishihashi, Ken-ichiro Arai, Chusei Fujiwara, Wataru Mashiko, Satoru Yoshida, Syugo Hayashi, Kenichi Kusunoki, 2015: Characteristics of Lightning Jumps Associated with a Tornadic Supercell on 2 September 2013. SOLA, 11, 18-22. <https://doi.org/10.2151/sola.2015-005>

に掲載の Figure 3(a)と Figure 3(b)。なお、Figure 3c-3e は不使用。

【転載先】：“気象学ライブラリー（仮題）雷放電とメソ気象”（朝倉書店）著者：吉田智（発刊：2024年度中を予定）

・後援名義等使用依頼受付

①名称：雷サミット

主催：一般社団法人日本風工学会

共催：鶴岡市、雷文化都市構築推進委員会

期日：2024年1月27～28日

会場：鶴岡市先端研究産業支援センターレクチャーホール（山形県鶴岡市）

名義：後援

②名称：第12回中部ライフガードTEC2024～防災・減災・危機管理展～

主催：名古屋国際見本市委員会、(公財)名古屋産業振興公社

期日：2024年11月28～29日

会場：ポートメッセなごや（名古屋市国際展示場）

名義：後援

③名称：第6回 WCRP 再解析国際会議（6th WCRP International Conference on Reanalysis）

主催：WCRP、気象庁、ClimCORE（地域気象データと先端学術による戦略的社会共創

拠点)、東京大学

期日：2024年10月28日（月）～11月1日（金）

場所：東京大学伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホール

名義：後援

④名称：新学術領域研究「変わりゆく気候系における中緯度大気海洋相互作用hotspot」一般向けシンポジウム

主催：科学研究費助成事業・新学術領域研究「変わりゆく気候系における中緯度大気海洋相互作用hotspot」

期日：2024年3月23日（土）

場所：東京大学先端科学技術研究センターENEOS ホール（オンライン併用）

名義：後援

・寄付者リスト（2023.12.15～2024.2.1）なし

会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

- ・2023年12月分の収支及び現預金検査報告
- ・流動資金（運転資金）の月ごとの推移。
- ・各研究会からの報告
- ・研究連絡会実施報告（第14回気象学史研究連絡会）

3) 委員会報告

企画調整・・・以下の内容が報告された。

- ・特定寄付について、クレジットカード払い対応を進めている。

企画講演・・・以下の内容が報告された。

- ・2024年度春季大会の準備状況
- ・2024年度秋季大会の準備状況
- ・JpGU2024 学協会共催セッション20件

天気編集・・・以下の内容が報告された。

- ・2024年1月、2月号の掲載記事と、2024年3月の予定記事
- ・1月にオンラインに移行し投稿案内を変えた。カラーページ料金、ページ制限を廃止した。

気象集誌編集・・・以下の内容が報告された。

- ・Vol. 102 No.1（2024年1月）の掲載論文とVol. 102 No.2（2024年2月）の掲載予定論文。審査中の論文リスト。
- ・前回の第12回理事会で気象集誌/SOLAのSpringer/Nature移行について説明したが、懸念が多く寄せられたため、懸念に対する回答を示した。
- ・検討の参考のため、国際的なジャーナルに詳しい村山氏（情報通信研究機構）にレクチャ頂いた。

以下の意見があった。

- ・編集作業が編集委員の負担になっていることは切実。負担軽減につながるので賛成。

- ・大きな決断になるため今回決めてしまうのは拙速。3月の理事会で再度検討する。

SOLA 編集・・・以下の内容が報告された。

- ・論文の投稿・公開状況。
- ・特別号企画 JMSJ・SOLA 合同特別号「高性能スーパーコンピュータを用いた最新の大気科学の進展」(Vol. 19A, 20A) , SOLA 特別号「豪雨をもたらす停滞性降水系一線状降水帯―研究の新展開」(Vol. 20B)
- ・2023年 SOLA 論文賞の決定
- ・2023年 11～12月の掲載論文：6編

表彰関連・・・以下の内容が報告された。

- ・「日本気象学会賞」「正野賞」の推薦について、各賞の候補者推薦委員会より候補者が提示され、推薦理由について確認を行った。
- ・小倉奨励賞について、2月締で募集中。
- ・岸保・立平賞について、推薦が無かったため今回なし。
- ・名誉会員推薦について、4名内定。

部外表彰等候補者推薦・・・以下の内容が報告された。

- ・日本学術振興育志賞を1名推薦し受賞した。
- ・第40回井上学術賞に1名推薦し不採択。
- ・日本学術振興会賞に2名推薦
- ・令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰に1名推薦済
- ・第44回猿橋賞に2名推薦済

学術・・・以下の内容が報告された。

- ・日本の気象学の現状と展望 2024 のパブリックコメントを学会 HP に掲載

地球環境問題・・・以下の内容が報告された。

- ・今期の活動経緯：気候変動の仕組みに関する知見を一般向け（特に中等教育）に普及させる教材作成の検討

気象災害・・・以下の内容が報告された。

- ・JpGU で線状降水帯のセッションを行う。

教育と普及・・・以下の内容が報告された。

- ・先生のための気象教育セミナー：「雪や氷の造形を楽しもう」をテーマに 2024 年 1 月 7 日（日）みなと科学館。内容は好評であった。配布テキストに小倉基金を使用。
- ・気象サイエンスカフェ：第 58 回東京「線状降水帯」をテーマに 2 月 4 日（日）みなと科学館，第 14 回つくば「南極の近年の気候変化と観測」をテーマに 2 月 25 日（日）みなと科学館で実施予定。
- ・ジュニアセッション：5 月 25 日（土）開催予定。春季大会のあり方見直しに伴い、ジュニアセッションのあり方も検討していく。

- ・夏季大学：8月3日（土）4日（日）開催予定。テーマ未定

国際学術・・・以下の内容が報告された。

- ・ACM（日中韓気象学会）が2024年に日本で開催される。規定を改定して少額（定額）を多くの方に補助する改定案が提案された。全会一致で承認した。

人材育成・男女共同参画・・・以下の内容が報告された。

- ・1月25日（木）第8回委員会を開催
- ・Web ページ改訂のための学生2名の臨時雇用賃金として補助金申請。アルバイト代以上の働きをしていると評価している。全会一致で承認した。
- ・女子中高生夏の学校（夏学）参加について準備状況

広報・・・以下の内容が報告された。

- ・事務局の要望で入会申込書を変更した。
- ・会員サーバのOSメジャーアップデートを実施した。
- ・第43期役員選挙の電子投票対応を行った。
- ・「日本の気象学の現状と展望2024」のパブリックコメント対応を行った。

4) 理事長報告

以下の内容が報告された。

- ・他学会等の大会実施形式（ハイブリッド）の動向について
- ・国際学会の動向について。

5) その他

①2024年度の事務局体制

- ・勝山事務局長の定年延長、齋藤誠一郎氏に代わり福本昌史氏が会計担当となることを全会一致で承認した。

3. その他

稲津理事からコンサルタント委託業務の報告結果について、結果を整理する旨の発言があった。

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2024年3月29日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 鈴木 靖

監事 吉田 聡